

【工夫のポイント】

- Uターン就農者が基盤整備を契機に野菜の生産量を拡大。地域に根付いた伝統野菜を守り、地域資源の減少を防ぐ。
- 小学校や保育施設を対象とした収穫体験や料理教室などにより食育を推進。
- 給食センターや地元レストランに野菜を出荷し、地元食材に対する関心、愛着を持ってもらう地産地消の取組を実施。

【取組地域の概要】

- 位置 こうしゅうし
山梨県甲州市(山村、特農)

山梨県



かみかね
神金地区

- 主要作物
・大豆、さといも、だいこん、たまねぎ 等
- 主な支援施策
・農地耕作条件改善事業(H30～)
・農地中間管理事業(R3～)
・果樹団地化促進支援事業(県単:R4～)

区画の拡大による生産性の向上

- 区画の拡大により農業機械の導入が可能となり、生産コストが低減。生産量も増加し、安定供給を確保。



31筆→13筆に集約

整備後

基盤整備
(H30年～)

【整備前】

- 傾斜が大きく不整形で狭小な区画であるため、作業効率が悪く営農に支障。さらに担い手不足により借り手が見つからず荒廃農地が増加。



整備前

生産現場

伝統野菜+無農薬栽培で高付加価値化を実現

- 親元でUターン就農した若手農家が、新たに農園を設立。地域に根付いた伝統野菜を、農薬や化学肥料を使わず栽培することで高いブランド力が定着。



伝統野菜

有機大豆

地域の取組

食育と地産地消活動の推進

- 小学校や保育施設と連携し、収穫体験や収穫した野菜によるカレー作りのイベントを定期的に開催。市内の給食センターにも野菜を出荷し、食育と地産地消の両面から、地域の魅力を発信。



収穫体験

カレー作り

加工・流通

インターネットを活用した販路拡大

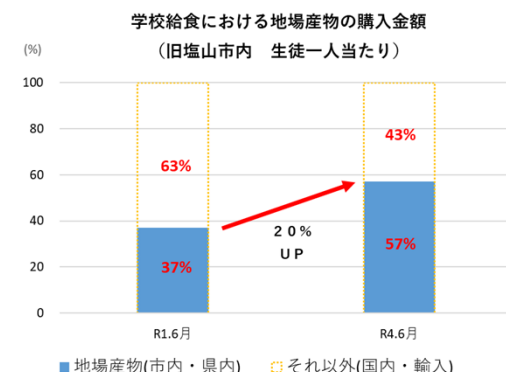
- SNSを通じて、本地域の野菜を広く周知し、各種イベントでも販売。収量の少ない伝統野菜は、首都圏のレストランへ直接出荷。
- 地域の個人宅への野菜配達も行うなど、新たな販路を拡大。



イベントへの出展

学校給食における 地場産物の積極的な活用

- 食育活動を通して、生産者の顔が見える安全、安心な野菜として地域の人に広く認知。
- 学校給食センターでの地場産物の使用割合も年々増加。



[出典: 甲州市学校給食センター調べ]



市内の学校給食

地域の野菜を
使用した献立